

元気都市 四日市へ!!

第49号

森 ともひろ通信



あなたは 5 8 6 2 9 1 人目の読者です。

48歳　四日市市長/公認会計士

≪四日市産業共創大学群(仮称)構想≫　なぜ工学系大学が必要か



四日市市が推し進めるJR四日市駅前での**「四日市産業共創大学群(仮称)構想」**は、本市の命運を握る極めて重要なプロジェクトとなります。

今回の工学系大学の設置については、雇用や税収等の恵まれた環境にある本市の現状、その背景にある強固な産業構造、そして、本市の持続的な発展に向けた今後の産業発展をいかに考えるか等の視点が重要になってきます。

今回は、4つの視点から、その必要性について述べていきたいと思います。

Ⅰ.四日市市を中心とする北勢地域は全国有数の「ものづくり」地域

経済産業省の2024年経済構造実態調査によると、三重県は、製造品出荷額等が47都道府県中、9位に位置する、モノづくり県といえます。その三重県の製造品出荷額等の72%を北勢地域が占めています。ちなみに、北勢地域の製造品出荷額等を都道府県ランキングで比べてみると、全国で16位に位置し、東京都を超える規模となります。

特に、北勢地域の中心となる四日市市においては、内陸部の半導体産業、臨海部のコンビナート等の強固な産業基盤をを背景に、恵まれた雇用や税収等があり、人口流入超過、普通交付税の不交付団体となっています。

Ⅱ.将来直面する「ものづくり」を支える理系人材不足

こういった恵まれた環境を維持・継続していくためには、持続的な産業・経済発展が必要となります。しかし、経済産業省の発表によると、2040年には就業者における理系人材〔例えば、理系の大卒・院卒124万人〕が不足し、国として、将来におけるものづくりを支える人材の確保に大きな課題が生じるとされています。

これを受けて文部科学省では、この課題に応えるために、高等学校改革を推し進め、2040年における普通高校における文系生徒と理系生徒の割合を同程度とし、一定程度の理系生徒の確保を図るという目標を定めています。

企業においても人材確保が重要な視点となっており、産業都市四日市市として、これらものづくり人材、理系人材の確保・育成の課題に真摯に取り組んでいかなければなりません。

Ⅲ.三重県の大学収容力が全国最下位/産業集積地に工学系大学がゼロ

三重県の大学の状況に目を向けると、三重県の「大学進学者収容力」(=都道府県の大学定員数/都道府県の18歳人口)は全国最低と県内における大学の選択肢が限られており、三重県の大学進学者数の約8割が県外に流出しています。更に、三重県の3/4のモノづくりが行われている北勢地域に工学系を学べる大学は一つもありません。

Ⅳ.国の「産業クラスター計画」/官民投資総額370兆円超を目指す

国は「地域未来戦略」において、17の戦略分野を指定し、地方に投資を呼び込み「産業クラスター」の形成を目指しています。そして、2040年度までに官民合せて370兆円を超える投資を行う計画を発表しています。

この**「戦略産業クラスター計画」**においては、産学官の連携が重要視されています。このことから、当地域の弱みとなっている『**学**』の充実に取り組み、多くの産業投資を四日市市に呼び込む環境整備・教育基盤整備が必要になります。

この環境整備・教育基盤整備の大きな柱となるのが、「四日市産業共創大学群(仮称)構想」となります。

■『くすの木パーキング』復旧に向けて

昨年9月の大雨により、甚大な浸水被害を受けた地下駐車場「くすの木パーキング」。これまで、早期の復旧に向けて、市が民間所有〔中央通り地下〕部分について取得し、市の施設として復旧を図る方針を示していましたが、民間企業の破産手続きの開始や破産管財人との取得価格の交渉等により、その取得に時間を要していました。

ようやく交渉がまとまり、8月定例月議会に「地下駐車場取得費」「地下駐車場施設復旧設計業務委託費」等の補正予算3億5,100万円を上程しました。今後、令和９年度中の復旧完了を目指し、事業を進めていきます。

■新図書館を含む複合施設 『「知」と「交流」の拠点施設』基本設計進む



【基本設計における内観イメージ】

三滝通りと諏訪新道の交差点の四日市市役所側に建設予定の、新図書館を含む複合施設『**「知」と「交流」の拠点施設**』の基本設計が進んでいます。

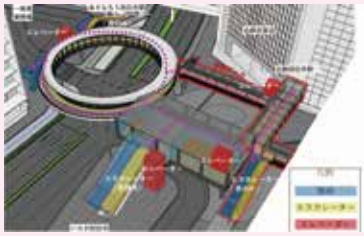
『**「知」と「交流」の拠点施設**』とは、知識や情報、人に出会える滞在型図書館を核とし、市民の創造・交流活動の場となる多目的ホールやカフェ、情報発信・コミュニケーション機能等を組み合わせた施設となります。

「市民ワークショップ」の開催等により、多くの市民の皆さんのご意見をお聞きし、反映させた基本設計を今年度中に取り纏め、来年度、令和９年度の実施設計〔設計施工一括発注方式〕に繋げ、令和11年度中の開館を目指します。

■『よんまるテラス連絡通路』 商店街とつながる通路が開通

9月12日に『**よんまるテラス連絡通路**』と商店街をつなげる通路が開通しました。6月の直線デッキ（中央通りを南北に行き来出来る通路）の完成に続き、近鉄四日市駅等と商店街をつなぐ新たな通路が誕生しました。

今後、国が進めている三重県最大のバスターミナル『**バスタ四日市**』との接続により、更なる都市機能の向上が図られることになります。



■『全国市長会』 副会長に就任

6月10日に開催された『第96回全国市長会議』にて、令和8年度の『全国市長会副会長』に選任されました。

全国市長会の副会長は、９つの支部推薦者と会長が推薦する者で構成され、私は令和7年度に「東海市長会」の会長を務めていたことから、東海地区推薦枠での選任となります。

『全国市長会』は、815人の市長、区長が加盟する組織です。都市間の連絡協調を図り、地方自治の興隆繁栄に寄与することを目的とし、市民の福祉の向上を図るとともに、より良いまちづくりを推進するため、全都市に共通する課題や、単独の市では解決が難しい問題への対応策について調査研究、意見集約を行い、発信し、関係者の理解を求めるほか、国会・政府等に対してその実現の働きかけを行っています。

■駅立ち900日を超える!! 街頭演説も継続的に実施中

平成22年9月21日から始めた朝の駅立ちは、令和8年7月6日の近鉄四日市駅東口で節目の900日を迎え、8月31日のJR四日市駅で906日となりました。また、街頭演説は毎月実施しています。駅立ち・街頭演説は政治家 森智広の活動の原点です。

引き続き、原点を忘れることなく、様々な活動を通じ、積極的に市政情報及び、自らの想いを発信し、皆さんと共に四日市市政を前に進めていきます。

駅立ち実績〔2026年4月13日～〕

4月13日 近鉄四日市駅西口	6月 19日 近鉄霞ヶ浦駅	7月16日 近鉄伊勢松本駅	8月 3日 近鉄桜駅
4月20日 近鉄富田駅西口	6月22日 近鉄富田駅東口	7月21日 近鉄伊勢川島駅	8月17日 近鉄川原町駅
4月27日 近鉄塩浜駅	6月29日 JR 四日市駅	7月27日 近鉄四日市駅北口	8月31日 JR 四日市駅
6月 8日 近鉄阿倉川駅	7月 6日 近鉄四日市駅東口		



森 智広 プロフィール

学　歴
平成 6 年　西陵中学校 卒業
平成 9 年　四日市南高校 卒業
平成13年　立命館大学 理工学部 卒業
平成23年　早稲田大学大学院公共経営研究科 修了

職　歴
平成15年　中央青山監査法人 入所
平成18年　あらた監査法人 入所
平成19年　公認会計士登録
平成21年　プライスウォーターハウスクーパース株式会社 事業再生/再編グループ 出向
平成22年　あらた監査法人 退所
平成23年　四日市市議会議員選挙にて、5,493票の負託を受けてトップ当選　〔現役最年少〕
平成25年　税理士登録
平成27年　四日市市議会議員選挙にて、5,852票の負託を受けてトップ当選
平成28年　四日市市長選挙にて、46,051票の負託を受けて当選
令和 2 年　57年振りの無投票で 四日市市長選挙2期目当選
令和 6 年　55,664票の負託を受け、四日市市長選挙3期目当選

【役職】
・全国市長会副会長
・東海地区港湾協議会会長
・三重県後期高齢者医療広域連合 連合長
・北勢未来会議〔北勢5市5町参画〕　会長



継続的に市政情報発信しています!
森ともひろブログ

森ともひろブログ　検索

森 ともひろ後援会連絡先　〒512-1105 四日市市水沢町2452　E-mail：genki@mori-tomohiro.net

令和8年9月14日作成

森ともひろ後援会　討議資料